



冷たい北風が吹く日はありますが、次第に暖かな日も増えてきました。春の訪れを待ちわびる虫や草花は、少しずつ準備を始めています。皆さんも、それぞれの春に向かって頑張りましょう。図書室でも、皆さんを応援しています。

2月20日

歌舞伎の日



1607(慶長12)年のこの日、出雲阿国が江戸城で将軍徳川家康や諸国の大名の前で初めて「かぶき踊り」を披露したことに由来しています。当時、派手な格好をして非常識な行動をしていた人を「かぶき者」と呼び、その人の斬新な動きや、派手な装いを取り入れた踊りのことを「かぶき踊り」と言いました。

📖『歌舞伎にアクセス 劇場に行こう』 伊達なつめ：著

敷居が高いと思われがちな歌舞伎ですが、この本を読めば初心者でも大丈夫。切符の買い方や舞台の見方、初めて見る人におすすめの演目、おすすめの役者も紹介しています。歌舞伎用語の解説、舞台装置の秘密も載っているので、鑑賞前には、ぜひどうぞ。

📖『仮名手本忠臣蔵 橋本治・岡田嘉夫の歌舞伎絵巻1』 竹田出雲 他：著

赤穂浪士の吉良邸討ち入りを題材にした文楽からきている歌舞伎の「仮名手本忠臣蔵」の絵本。実在する人物も登場しますが、オリジナルキャラクターもいて、わかりやすく書かれています。挿絵も鮮やかな勢いのある構図で描かれ、紙芝居のような迫力が楽しめる作品です。

📖『染五郎と読む歌舞伎になった義経物語』 小野幸恵：著 市川染五郎：監修

歌舞伎には源義経にまつわる演目が多くありますが、残っている史料は少なく、物語のほとんどは伝説です。義経の生涯が歌舞伎の作品でどのように描かれているのか、実際に演じたことのある染五郎さん（今は松本幸四郎さん）の話を聞きながら、その魅力に迫ります。

しがなおや 志賀直哉(2月生まれ)



明治から昭和にかけて活躍した小説家。1910年に武者小路実篤らと共に『白樺』を創刊。1915年～1923年の間を我孫子で暮らし、『城の崎にて』や『和解』、『小僧の神様』、『暗夜行路』などを執筆した。1949年には、文化勲章を受章する。

📖『和解』

順吉は、父親とささいなことで不仲が続いていました。和解のきっかけとなった二つの出来事とは。

* 職業調べ 伝統芸能家 *

『伝統芸能家になるには』 佐貫百合人：著

世襲制せしゅうせい(その家系の子孫が代々継いでいくこと)のイメージが強い伝統芸能ですが、今は養成機関での研修を受ければ、誰もがなれる職業となりました。研修生から、歌舞伎俳優として一人前と認められる名題となった、中村勘之丞さんのインタビューも載っています。



この本、読んでみませんか？ (図書委員 悠暉さんのおすすめ)

『本と鍵の季節』 米澤穂信：著

利用者のほとんどいない放課後の図書室で、図書委員の堀川次郎と松倉詩門が図書室に持ち込まれる謎に二人で挑む物語です。開かずの金庫の暗号や友人の借りた本の謎など、全6編あります。続編の『朧と嘘の季節』も多古中の図書室にあるので、ぜひ、この2冊を借りて読んでみてください。